

ここに紹介する平成 28 年度の個別指導指摘事項（歯科）は、長野県保険医協会が個別指導関係行政文書の開示請求で得た関東信越厚生局長長野事務所分の歯科の医療機関に対する個別指導結果通知の内容を項目ごとに整理したもの。（末尾の＊印は 2 件以上を示す）

I 診療内容等に関する事項

10. 処置（続き）

(3) 加圧根管充填処置

① 算定要件を満たさない加圧根管充填処置を算定していたので改めること。（以下ア～ク返還金事例）

ア 気密な根管充填が行われていない例＊

イ 根尖画像がないため、根管充填後の歯科エックス線撮影による確認ができない例

ウ 歯科エックス線撮影による根管充填後の確認を行っていない例＊

エ 処置を行った根管数と算定した根管数が一致しない例＊

オ 根管充填材が根尖孔へ到達していない例＊

カ 治療方針の概要の記載が不十分な例

キ 画像が不鮮明なため、根管充填後の歯科エックス線撮影による確認ができない例

ク 根管充填後の根尖画像がないため気密な根管充填が行われていることが確認できない例が認められた。

(4) 歯冠修復物又は補綴物の除去

① 算定要件を満たさない歯冠修復物又は補綴物の除去を算定していたので改めること。（以下ア、イ返還金事例）

ア 保険給付外の材料等による歯冠修復物の製作のために除去を算定していた例

イ 脱離後に仮着した歯冠修復物の除去について算定していた例

① 算定要件を満たさない歯冠修復物又は補綴物の除去の「3 根管内ポストを有する鋳造体の除去」を算定していたので改めること。

ア スクリューポストの除去を「3 根



個別指導指摘事項⑤

管内ポストを有する鋳造体の除去」  
として算走していた例（返還金事例）

② 算定要件を満たさない歯冠修復物又は補綴物の除去の根管内ポストを有する鋳造体の除去を算定していたので改めること。

ア 歯根の長さの 3 分の 1 未満のポストの除去について算定していた例（返還金事例）

(5) 有床義歯床下粘膜調整処置

① 長期にわたり有床義歯床下粘膜調整処置を繰り返し算定していた例が認められたので、有床義歯床下粘膜調整処置の実施にあたっては、当該義歯の適合状態や予後を十分に検討したうえで行うこと。

② 算定要件を満たさない有床義歯床下粘膜調整処置を算定していたので改めること。

ア 有床義歯床下粘膜調整処置の実施後に有床義歯の新製または、床裏装を行っていない例が認められた。（返還金事例）

(6) 床副子

① 歯ぎしりの診療において、確定診断の根拠及び病態診査の内容の診療録の記載が…以下…が認められたので適切に記載すること。

ア 不十分な例

イ 具体性を欠く例＊

ウ 具体性を欠く不十分な例

② 算定要件を満たさない床副子を算定していたので改めること。

ア 歯ぎしりに対する咬合床（アクチバートル式のもの以外のもの）をアクチバートル式として算定していた例（返還金事例）

③ 顎関節症の診療において、診療録に確定診断の根拠及び病態診査の内容の記載に以下の不適切な例が認められたので適切に記載すること。

ア 具体性を欠く不十分な例＊

<p>「平成 30 年度指導対象医療機関の選定について」より 同文書は医科と歯科と薬局で別に出されている。指導大綱や関連通知をもとにしているの、 「3」の「個別指導」関係部分を下記に掲載し紹介する。内容は医科・歯科同じ内容となっている。 3 個別指導 指導大綱第 4 の 4（1）及び「保険医療機関等及び保険医等の指導及び監査について」の改正について（平成 20 年 9 月 30 日保険発第 0930008 号厚生労働省保険局長通知）に基づいて選定し、個別に面接懇談方式により実施する。 (1) 個別指導の選定対象医療機関 ① 支払基金等、保険者、被保険者等から診療内容又は診療報酬の請求に関する 情報の提供があり、個別指導が必要と認められた保険医療機関。 ② 個別指導の結果、「再指導」であった保険医療機関又は「経過観察」であって、改善が認められない保険医療機関。 ③ 監査の結果、戒告又は注意を受けた保険医療機関。 ④ 医療監視の結果、問題のあった保険医療</p>	<p>機関。 ⑤ 検察又は警察からの情報により、指導の必要性が生じた保険医療機関。 ⑥ 他の保険医療機関等の個別指導又は監査に関連して、指導の必要性が生じた保険医療機関。 ⑦ 会計検査院の実地検査の結果、指導の必要性が生じた保険医療機関。 ⑧ 集团的個別指導を受け、翌年度の実績においても、なお高点数に該当した保険医療機関（ただし、集团的個別指導を受けた後、個別指導のいずれかに該当するものとして個別指導を受けたものについては、この限りでない。） ⑨ 正当な理由がなく集团的個別指導を拒否した保険医療機関。 ⑩ 新規指定の保険医療機関。 (2) 実施基準 ① 3 の (1) ①から⑨は保険医療機関の 4 % 程度を実施し、この場合、①から⑦及び⑨を優先して実施する。 ② 3 の (1) ⑩は新規指定より概ね 6 ヶ月を経過した保険医療機関を上記①とは別枠で実施する。</p>
---	---

イ 不十分な例

④ 床副子を製作するにあたり、算定要件を満たさない印象採得を算定していたので改めること。

ア 1 回算定すべきところを 2 回算定していた例が認められた。（返還金事例）

(7) 床副子調整

① 算定要件を満たさない床副子調整を算定していたので改めること。

ア 診療録に病態診査の内容の記載がないまま、歯ぎしりに対する咬合床の調整を算定していた例

イ 診療録に調整の方法等の記載がない例（返還金事例）

(8) 周術期専門の口腔衛生処置

① 診療録に歯科医師が専門的口腔清掃を指示した歯科衛生士の氏名を適切に記載すること。

歯周疾患処置

① 算定要件を満たさない歯周疾患処置を算定していたので改めること。

ア 特定薬剤（ペリオフィール）の適応外使用が認められた。（返還金事例）

11. 歯周治療

(1) 歯周病検査

① 歯の動揺度の検査結果の記載方法が不正確であったので適切に記載すること。＊

② 歯周病検査は、歯周基本治療後の適切な時期に実施すること。

③ 歯周病検査の歯周基本検査において、以下の不適切な例が認められたので改めること。

ア 歯周基本治療後に比較的短期間で歯周病基本検査が実施されているので適切な時期に実施すること。

③ 歯周病検査の歯周精密検査において以下の不適切な例が認められたので改めること。

ア プロービング時の出血の有無及びプラークチャートを用いるプラークの付着状況の検査の検査結果の記載方法が不適當であったので適切に記載すること。

イ 診療録の歯の動揺度検査の結果の記載が不適當な例が認められたので適切に記載すること。

④ 歯周病検査の歯周基本検査及び歯周精密検査において、以下の不適切な例が認められたので改めること。

ア 歯の動揺度検査の検査結果の記載方法が不適當であったので適切に記載すること。

⑤ 算定要件を満たさない歯周基本検査を算定していたので改めること。（以下ア、イ返還金事例）

ア 残根歯（歯内療法、根面被覆処置を行って積極的に保存した残根を除く。）を歯数に数えていた例

イ 診療録に 1 点法以上の歯周ポケット測定及び歯の動揺度検査の検査結果が記載されていない例

(2) 診断等

① 「歯周病の診断と治療に関する指針」(平成 19 年 11 月 日本歯科医学会)を参考とする等、歯科医学的に妥当適切な歯周治療を行うこと。＊

② 歯周病の治療と並行して行う歯冠修復又は欠損補綴は、診断と処置の流れを再考すると共に計画的に行うこと。＊

(3) 歯周組織の処置

① 診療録に歯周病に係る症状及び所見等の記載が乏しく診断根拠や治療方針が不明確であるので改めること。＊

② 歯周基本治療の後に確認の歯周病検査を行っていない例が認められたので改めること。

(4) 歯周基本治療

① 歯周基本治療のスクレーリング・ルートプレーニングにおいて以下の不適切な例が認められたので改めること。

ア 歯周病検査及び臨床所見等から判断してスクレーリング・ルートプレーニングの実施にあたっては、その必要性を十分に考慮すること。

② 算定要件を満たさない歯周基本治療の「1 スクレーリング」を算定していたので改めること。

ア 不適切な歯周基本検査の結果に基づき行われていた例が認められた。＊（返還金事例）

(5) 歯周病安定期治療

① 治療方針が明確にされていないので、歯周病安定期治療の開始にあたって行った歯周病検査の結果に基づいて実施すること。＊

② 算定要件を満たさない歯周病安定期治療を算定していたので改めること。

ア 症状が安定していない患者に対して算定していた例（返還金事例）

(6) 歯周病安定期治療 (II)

① 診療録の継続的な治療（プラークコントロール、歯周病検査、スクレーリング、スクレーリング・ルートプレーニング、咬合調整及び機械的歯面清掃）の記載が不十分な例が認められたので適切に記載すること。

(7) 歯周基本治療処置

① 算定要件を満たさない歯周基本治療処置を算定していたので改めること。（以下ア、イ返還金事例）

ア 不適切な歯周基本検査の結果に基づき行われていた歯周基本治療に対して処置を行っていた例

イ 診療録に使用した薬剤名の記載がない例